

(様式3)
【学校用】

ふるさと教育 取組事例

学校名	浜田市立国府小学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
5	総合的な学習	「国府（ふるさと）の魅力」	Iターンした人、まちづくりセンター 駐在所、千畳苑、三島ファーム
ねらい		○見つけたふるさと（国府・浜田）の魅力伝えたり、課題を解決したりするために、自分たちでできることを考え、発信する。	

1 取組の概要

- (1) 「20年後浜田に住んでいたい？」の問いかけから始まった学習
- (2) 校区にIターンで移住してこられた方々のお話を聞き、質問する。
- (3) 「ふるさとの魅力を守り、ひろめる」プロジェクト学習



きれいな海や川を守る	どうやって汚れるのか、どこが汚れるのか調査する。
きれいなまちにしたい	まちづくりセンターに来た人にアンケートをする。
仕事（農業）を盛んにする	お店で地元の野菜がどれだけ売られているか調査する。
犯罪や事故のないまち	駐在所に行き、どこで事故が起きやすいか聞き取りをする。
人が集まるまち	千畳苑に来る人はどこから来て、どこへ行く人か調査する。
笑顔あふれるまち	幟を作り、町内であいさつ運動をする。
みどりがたくさん	植物（花）を育て、まちづくりセンターに飾ってもらう。
自然に親しむ	国府のおすすめスポットを調べ、ポスターを作る。

- (4) 学習成果発表会で調査結果や提案を発表（コロナ禍で中止）

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力をつけるために、どのような意図をもって活用したか。

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

- ・ Iターンで移住してきた方との出会い、ふるさとの魅力を再発見するきっかけとする。

（学力育成の視点から）

- ・ 校区内の施設や地域の人々の協力を得て、主体的に取材や調査ができるようにする。



3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身についたか等）

（ふるさとへの愛着、貢献意欲の視点から）

- ・ Iターンをした人との出会いを通して、「ふるさとの魅力や課題を見つけよう」と学習のめあてや課題づくりが自分たちの手で行えるようになった。

（学力育成の視点から）

- ・ 課題解決のために、何をしたらよいか、どうすればそれができるか、必要なことは何か、など試行錯誤を繰り返しながら、協力して探究的な学習を進めていった。（見通す力・協働する力）



4 課題

子どもが自分たちの発想を生かして調査をしたり、実践をしたりする時、その多くが校外の学習となる。校外学習をサポートする人手が足りない。まちづくりセンターのボランティアの協力も得たが、タイムリーに来ていただくことは難しかった。

今年度は、成果発表の機会がなかったが、表現・発信が外部への呼びかけだけでなく、自分自身の成長や行動の変容を自覚するようなまとめの学習過程を取り入れることが必要である。